新約全書哥林多後書　パウロ、コリント人におくれる後の書

第一章

一 神の旨に由てイエスキリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ書をコリントにある神の教會と偏くアカヤにある凡の聖徒に達る

二 願くハ我儕の父なる神および主イエスキリストより恩寵と平康なんぢらに[illegible]

三 〇頌美べきかな神即ち我儕の主イエスキリストの父すべての

四 安慰を賜ふの神 彼ハ我儕が諸般の患難の中に我儕を慰めたまふ是我儕をして神の我儕を慰めたまふ安慰を以て又もろもろの患難にをる者を慰むることを得しめん爲なり

五 蓋キリストの苦難われらに多くあるが如く我儕の安慰もキリストに由て多くあるなり

六 われら或ハ患難を受るも爾曹が安慰と救の爲なり此安慰と救ハ我儕の中に働きて我儕が受る如き苦難にも爾曹を忍しむるなり我儕あるひハ安慰を受るも亦なんぢらが安慰と救の爲なり

七 爾曹が苦難に與る如くまた安慰をも同に與ることを我儕ハ知この故に爾曹につき我儕が望むところハ確し

八 兄弟よ我儕が

イ [illegible]
ロ [illegible]
ハ [illegible]
ニ [illegible]
ホ [illegible]
ヘ [illegible]
ト [illegible]
チ [illegible]
リ [illegible]
ヌ [illegible]
ル [illegible]
ヲ [illegible]

[illegible]

アジアに於て遇し所の患難を爾曹が知ざるを欲ず即ち力に過て甚く壓れ生る
望をも失へり　九　自ら死ぬべきと心に定めたり是己を恃ずして
死し者を甦らせ給ふ神を恃ん爲なり〇　十　神は斯る
大なる死より我儕を救ひ給へり今もまた救ひ給ふ後も猶救ひ給はん
ことを我儕之を恃めり　十一　爾曹も祈をもて我儕を助く斯て許多の人に由て我儕に
賜りし恩惠は許多の人も我儕が爲に感謝するに至らん〇　十二　我儕の誇は
我儕が誠心と信實に由また肉の智慧に由ず神の恩惠に由て世
に在て行をなし殊に爾曹に向ひて然る行をなせりと證す是われらが
良心の證する所なり　十三　我儕なんぢらに書贈る所は爾曹が讀ところ識所の外に非ざ
る也　十四　われ爾曹が終に至るまで此を識者あらんことを願ふ
即ち主イエスの日に爾曹が我儕の誇となる如く我儕も爾曹の
誇となる也　十五　われ之を信ずるに因て爾曹に再び恩を得させんため
前に爾曹に至り　十六　また爾曹を經てマケドニヤにゆき復マケドニ

十七 ヤより爾曹に歸り爾曹をして我をユダヤの方へ送しめんことを欲へり
我かく定めしとき浮薄心あらん乎また我が定しところ肉に由てさだめ是
十八 なり是なりと言また否なり否なりと言んや　神は誠實の神われらが爾曹に向
十九 ひて曰る言に是と言また否と言ことなしと證す　蓋われら即ち我
とシルワノ及びテモテ爾曹の中に傳たる神の子イエスキリストは是と言また
二十 否と言が如き者に非ず彼に於ては唯是と言有のみ　凡て神の約束は彼の中
に是となり又かれの中にアメンとなり我儕に由て神の榮の顯るゝに及ぶ
二一 爾曹と偕に我儕を堅くキリストに歸し且われらに膏を沃し者は神なり
二二 彼また印を我儕に押し且保證として聖靈を我儕の心に賜へり○　二三 我いま我
命を指し神を證として言へらく我が爾曹を寛さん爲に今まで未コリ
ントに至らざるは寛容にせんが爲なり我儕は爾曹の信仰の爲に權を
二四 揮むに非ず爾曹の喜樂を助くる者なり蓋なんぢらは信仰に由て立ばなり

第二章

一 我再び憂を以て爾曹に至らじと自ら定たり　二 若われ爾曹を憂しめば我

[illegible]

しめバ我を憂しむる所の者の外に誰か我を喜バせん乎　三 われ前に汝曹に書贈しハ我いたらんとき我を喜バすべき者より反て我を憂しめんことを恐れて也なんぢら皆わが喜樂を己が喜樂とすることを信ずる由　四 われ大なる患難と心の痛あるにより多の涙を流て汝曹に書贈れり然ど汝曹を憂しめんとにあらず我が汝曹を愛する愛の溢るゝを汝曹に知しめん爲なり○　五 もし憂しむる者あらバ我を憂しむるに非ず暫なんぢら衆を憂しむるなり但此いふハ我これを甚しく責ることを欲ざる也　六 斯る人ハ多の人の罰を受ること已に足り　七 然バ汝曹ハ反て彼を赦し慰むべし恐くハ彼はなハだしく憂に沈まん　八 是故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを汝曹に勸む　九 われ前に書を贈りしハ汝曹が凡の事に順ふや否こゝろみて之を知ん爲なり　十 なんぢら何事にても人を赦さバ我もまた之を赦さん我もし赦しゝ事あらバ汝曹の爲にキリストの前に赦しゝなり　十一 是我らサタンに詐さらん爲なり我儕かれの詭計を知ざるに非す○　十二 我キリストの福音の爲

[illegible]

十三 にトロアスに至り主我儕に門を開き給ひしに 十三 わが兄弟テトスに遇ざる
十四 が故に我心安からず彼等に別を告てマケドニヤに往り 十四 常に我儕をして
キリストに在て勝を得しめ且かれを知の香を我儕をして各處に顯す神に感
十五 謝す 十五 救るゝ者に於ても沈淪者に於ても我儕は神の爲にキリストの馨
十六 香なり 十六 沈淪者の爲には死の香にて死に至らしむ救るゝ者の爲には
十七 生の香にて彼等を生に至らしむ誰か之に堪んや 十七 我儕は多くの人の如く
神の道を混雑にせず即ち誠により神によりて神の前にキリストに在て言な
り

第三章

一 我儕また自ら己を薦めん乎われら或人の如く人より薦書を受て或
二 は之に與し或は薦書を受て人に與すべき者ならん乎 二 汝曹は我儕
三 の書なり即ち我儕心に書せり衆の人の知ところ讀ところ也 三 明か
に我儕が役事に由て出るキリストの書なり是墨に非ず活神の靈にて記し
四 又石碑に非ず心の肉碑に記したり 四 我儕キリストにより神に向ひて此の

[illegible]

如き信仰あり　五 我儕は己に由て自ら何事をも思得るに非ず我儕の思得る
るは神に因り　六 かれ我儕をして新約の役者となるに足しむ儀文に
非ず靈に從ふなり儀文は殺し靈は生せばなり　七 石に書刻し
の法の榮に因てすらイスラエルの人々かれの面を暫時こそ睹ざりき況く
八 靈に從ふ法は榮あらざらん乎　九 罪を定むる法もし榮あらば況て義とする
法は榮に於て彌勝る
者なり　十 前に榮ありし者も此勝たる榮に比れば榮なき者となれり　十一 消失べき者もし榮ありしならば況て長存る者に榮あ
らざらん乎　十二 われら此の如き望あるが故に甚だ明に言なり　十三 モーセの
如くイスラエルの人々に其消失んとする者の終を見ざらしめん爲に帕子に
て其面を蔽し如きに非ず　十四 然ど彼等の心は頑梗になれり今日に至るまで舊約を讀む
時その帕子なほ除かれずして存れり此帕子はキリストに由て除かるべき
者なればなり　十五 今日に至るまでモーセの書を讀むとき帕子その心を蔽へり

十六 然ど其心主に歸するに及ては其おほひ除かるべし 十七 主は即ち靈なり主の靈の在る所には自由あり 十八 凡て我儕面帕なくして鏡に照すが如く主の榮を見其榮に似たる像に化りて榮より榮に至る是主の靈に由てなり

第四章

一 是故に我儕この職を受て矜恤を蒙りたれば落膽せず 二 羞べき隱たる事を棄て詭譎に行はず神の道を混さず眞理を顯して神の前に己を人の良心に薦む 三 我儕の福音もし蔽ならば亡る者に蔽はるゝ也 四 此世の神は信ぜざる人の心を瞽したる不信者なり是神の像なるキリストの榮の福音の光を彼等を照さゞらしめんが爲なり 五 われら自己の事を宣るに非ずキリスト・イエスの主たることを宣ぶ我儕はイエスに由て爾曹の僕たるを宣るなり 六 暗より光を照すべしと命じたまひし神は我儕の心を照し給へり是キリストの面にある神の榮を知の光を顯さしめん爲なり 七 我儕この寶を瓦の器に盛たり是おほいなる能は神より出て我儕より出ざるを

ざる事の顯れん爲なり　八われら四方より患難を受れども窮せず　詮方つくれども
希望を失はず　九迫害らるれども棄られず　跌倒さるれども亡びず　十われら
常に主イエスの死を身に負り　此イエスの生も亦我儕の
身に顯れん爲なり　十一夫われら生者は常にイエスの爲に死に付さるゝ也
これイエスの生も亦我儕が死べき身に顯れん爲なり　十二斯て死は我儕に
働き生は爾曹に働くなり　十三録して我信ずるに因て言へりと有ごとく我儕も
此のごとき信仰の靈あれば信ずるに因て言なり　十四我儕は主イエスを甦ら
しゝ者のイエスと偕に我儕をも甦らせ我儕をして爾曹と偕に立しむる
事を知り　十五凡の事は爾曹の爲なれり　此ハ多くの人の
感謝に由て神の榮を顯さん爲なり　十六是故に我儕は落膽せ
ず　我儕が外なる人は壞るれども内なる人は日々に新なり　十七夫我儕が受る暫くの輕き苦難は極て
大なる窮なき重き榮を我儕に得しむる也　十八我儕が顧る所は見る所の者に
非ず見えざる所の者なり　蓋見る所の者は暫時にして見えざる所の者は永遠に至ればなり

第五章

一 我儕これを知われらが地にある幕屋壊なば神の賜ふ所の屋天にあり手にて造ざる窮なく存ところの屋なり 二 我儕この幕屋に居て歎き天より賜ふ我儕が屋を衣の如く着んことを深く慕へり 三 之を着ることを得ば裸になることを免かれん 四 我儕この幕屋にをりて重を負て歎くは是を脱ことを欲にあらで此上に着んことを欲ふ是死べき者の生命に呑れん為なり 五 それ此事に適ふ者と我儕を為し給ふ者は神なり彼その聖霊を我儕に與へ質と為り 六 是故に我儕常に心強し且この身に居るうちは主より離れ居ることを知 七 蓋われら見る所に由ずして信仰に由て歩めば也 八 我儕の心強し寧この身を離れて主と偕に居んことを願ふ 九 是故に我儕身に居ても身を離れても主の心に適はんことを勉む 十 蓋われら皆キリストの臺前に顯て各人善にもあれ惡にもあれ身に居て行し所のことに循て報を受べき者なれば也○ 十一 是故われら主の畏べきを知が故に人に勸む我儕

すでに神に顯かに知れたり爾曹の良心にも顯かに知れたらんことを
十二 望ふ我儕また自ら己を爾曹に薦るに非ず我儕の爲に誇るべき據を爾曹に予
ふ是なんぢら之を以て彼の外貌により心に由ずして誇る者に答ん爲な
十三 り我儕もし心狂るならば神の爲なり心慥ならば爾曹の爲なり
十四 キリストの愛われらを勵せり我儕思ふに一人衆の人に代て死たれば衆の
十五 人すでに死たる也その衆の人に代て死しは生る者をして己の爲に生な
十六 らず己に代て死て甦りし者のために生んとて也是故に今より
後われら肉體に依て人を識まじ我儕肉體に依てキリストを識しかども今
十七 より後は此の如く之を識まじ是故に人もしキリストに在ときは新に造れたる
十八 者なり舊きは去て皆新しく成なり一切のもの神より出づ神キリスト
十九 により我儕をして己と和がしめ且ちの和がしむる職を我儕に授く即ち
神キリストに在て世を己と和がしめ其罪を之に負せず且和がしむる言を
二十 我儕に委たまへり是故に我儕召れてキリストの使者となれり即ち神わ

れらに教へ我が與へて獲させんとする地において彼らにこれを行はしめよ 三十二 然ば汝ら謹みて汝らの神エホバの汝らに命じたまふごとく行ひ右にも左にも曲るべからず
三十三 汝らの神エホバの汝らに命じたまひし道に遵ひて歩むべし 然せば汝ら生ることを得かつ福祉を得 汝らが獲たる地において汝らの日を永うすることを得ん

第六章

一 是すなはち汝らの神エホバが汝らに教へよと命じたまふところの誡命と法度と律法にして汝らが濟りゆきて獲べき地において行ふべき者なり
二 然ば汝と汝の子と汝の子の子は一生の間汝の神エホバを畏れて我が汝らに命ずるその一切の法度と誡命を守るべし 然せば汝の日永からん
三 イスラエルよ聽て謹みて之を守れ 然せば汝は福祉を得 汝の先祖の神エホバの汝に言たまひしごとく乳と蜜との流るゝ國において汝の數おほいに増さん
四 イスラエルよ聽け 我らの神エホバは惟一のエホバなり
五 汝心を盡し精神を盡し力を盡して汝の神エホバを愛すべし
六 今日わが汝に命ずるこの言を汝の心にあらしめ
七 勤て之を汝の子等に教へ 汝家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時も之を語るべし
八 汝またこれを汝の手に結びて徴となし汝の目の間におきて誌となし
九 また汝の家の柱と汝の門に書しるすべし
十 汝の神エホバ汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて汝に與へんと言たまひし地に汝を導きいりて汝が建たるに非ざる大なる美しき邑々を得させ

れども常に喜び貧き者に似たれども多の人を富し何も有ざる者に似たれども凡の物を有り○
十一 コリント人よ我儕の口なんぢらに向て開け我儕の心廣くなれり
十二 爾曹われらに狭らるゝに非ず反て己が心に狭らるゝ也
十三 われ爾曹に語ること我子に語るが如し爾曹も自ら心を廣くして我に報ゆべし
十四 なんぢら不信者と軛を同くすること勿れ義と不義と何の相協ことか有ん光と暗と何の交ることか有ん
十五 キリストとベリアルと何の和合ことか有ん信者と不信者と何の干ることか有ん
十六 神の殿と偶像と何の關ことか有んそは汝なんぢらは活る神の殿なり神嘗て我かれらの中に住り且あゆまん我かれらの神となり彼等わが民とならんと曰給ひしが如し
十七 又なんぢら彼等の中より出て之を離れ汚穢に捫ること勿れ我なんぢらを納ん
十八 われ爾曹の父となり爾曹わが子女と爲べしと曰る是全能の主の言なり

第七章

一 然バ愛する者よ我儕この約束を得たれバ肉と靈の凡の汚を去て自己を潔くし神を畏れて聖潔ことを成就すべし
二 爾曹われらを納よ我儕

[illegible]

爾にして不義をなさず誰をも損はず誰をも欺きし事なし 三 われ如此いふは爾曹を罪せんとに非ず蓋われ前に言る如く爾曹は我儕の心に在て共に死ともに生んと欲バなり 四 われ爾曹を信ずること大なり又なんぢらに縁て誇みほこる我儕が受る凡の患難の中にも我に慰め満ち甚だ悦び勝あり 五 蓋われらマケドニヤに至れる時我儕の肉すこしも安きことなく各様の患難にあひ外に戦ひ内に懼ありき 六 然ど心卑き者を慰むる神テトスの來るに因て我儕を慰め給へり 七 啻に其來るに因て耳ならず彼が爾曹の慰藉をうけし慰藉ところ又われに向ふ爾曹の熱心を我に告るとき我が自ら安慰を得たる其安慰を以て我儕を慰め給へり是故に我ますます喜べり 八 われ書を以て爾曹を憂しめたれど悔ず前に悔たれど今は悔ず蓋かの書しばし爾曹を憂しめしは暫時の間なりしを知たれば也 九 今わが喜ぶは爾曹を憂しめしに因に非ず爾曹憂て悔改むることを為しに因て也なんぢら神に循ひて憂るにより我儕に少しも損はるゝ事なし 十 それ神に循ふ憂は悔なき救を

十一 爾の物貨に窮らしむる者の愛へ死に歸むる也　我儕が神に從ひて憂し所の事を顧よ爾曹に如何なる熱心また辯解また憤怒また懼懼また熱心また罰を施さんとする心を生ぜしや一切なんぢら彼事に於て自ら潔ことを表せり

十二 われ書を爾曹に贈りしハ不義を行たる者のために非ず又不義を受たる者のためにも非ず只われらが爾曹の爲に存ところの熱心を神の前にて爾曹に顯さんことを欲てなり

十三 是故に我儕安慰を得たり我儕が安慰を得たる上にテトスの爾曹に由て心を安んぜし故に其喜の心なんぢら爾に由て平安を得たれバなり

十四 われ爾曹の事を彼に誇しかど之を慚とせず我儕が爾曹に語し言のみな眞實なりし如くテトスの前に誇し言も亦眞實なり

十五 彼ハ爾曹衆人の恐懼戰慄をもて彼を接しことを憶ひだし益爾らの心に爾曹を愛せり

十六 われ凡の事を爾曹に恃べき是故に喜べり

第八章

一 兄弟よ我マケドニヤの諸教會に賜りし神の恩を爾曹に告ん　卽ち大なる艱の中に試を受るとき彼等の喜び我ともしく亦大なる其貧かれらの情

へ [illegible]　ホ [illegible]　へ [illegible]　ト [illegible]　チ [illegible]　リ [illegible]　ヌ [illegible]　ル [illegible]

なく施す所の當然な報ぜり 三 我これを證す彼等衆聖徒の爲に賑濟を共にせ
四 んことを切に我儕に求め自ら願て其力量に循ひ且らの力量に踰て施すこ
五 となせり 如此おこなひて我儕が望を踰しのみならず神の意旨に循ひ先
六 己を主に獻へ次に我儕に獻たり 是故に我儕テトスが既に此恩惠をもて汝
七 等を始めし如く亦汝等の中に之を成就せんことを彼に勸む 汝
ら信仰また言と知識また凡の勤勉および我儕に向ふ愛心に富
八 る如く此恩惠にも富べし 我かく言へ號令に命ずるに非ず他の人の勤
九 に藉て汝らの愛の實を試みんが爲なり 汝等われらの主イエス
キリストの恩を知り彼は富る者なりしが汝曹の爲に貧くなれり是
十 は彼の貧窮によりて汝曹を富る者となさん爲なり われ此事につい
て我が意を陳ぜり是なんぢらの益なり蓋なんぢら一年
前に行ひ始しのみならず且之を行んことを願へる者なればなり
十一 今なんぢら其事を成遂よ願ひし如く其所有に循て之を

成遂べし　十二　もし人ねがふ心あらば其無ところに循ず其有ところに循て嘉
納らるべし　十三　われ他の人を安逸して汝等を困苦めんとするに非ず平均せん
ことを欲ふ　十四　今汝等の餘るを以て彼等の足ざるを補ひ　亦かれらの餘る
を以て汝等の不足を補ひて平均せんが爲なり　十五　錄して多く斂る者も餘
らず少く斂る者も足ざる事なしと有が如し〇　十六　汝等に向ふ熱心を我と同
くテトスの心に賜ひし神に謝す　十七　彼かれ我が勸を納かつ熱心なる者にし
て自ら願て汝等に往り　十八　亦われら彼と偕に一人の兄弟を遣せり此人は福
音をもて諸教會の中に稱譽を得たる者なり　十九　然のみならず我儕が主の榮と
汝等の熱心を顯さんとて理ところの此惠物を携ふる爲に諸教會に選れ
て我儕と偕に往もの也　二十　我儕の此事を謹むは多の惠物を理ことにより
て人に謗を受ることなからん爲なり　二一　我儕は主の前のみな
らず人の前にも善らんことを謀るなり　二二　我儕また一人の兄弟を彼等と偕
に遣せり我儕しば〜彼を多の事に用ひて其熱心なるを知かれ深く汝等を

二三 禮するに就て今爰に熱心になれり　二三テトスの事を言ば彼は我儕の伴侶なり又われと偕に爾曹の爲に勤る者なり二人の兄弟等のことを言ば彼等へ諸教會の使者なりキリストの榮なり
二四 是故に彼等と諸教會の前に爾曹その愛と我儕が爾曹について誇ることの證を顯すべし

第九章

一 聖徒に施す事について我なんぢらに書贈るに及ず
二 我われ爾曹の熱心を知ばなり即ち爾曹の事をマケドニヤ人に誇りてアカヤは去年より備に及べりと言り且なんぢらの熱心はおほくの人を勵せたり
三 然ど我儕が爾曹に就て誇りしことの虚ならんことを恐れ我が言し如く爾曹をして備をなさしめん爲に兄弟等を遣せり
四 恐くはマケドニヤ人われと偕に來り爾曹が備せざるを見んとき爾曹へいふに及ず我儕まで此堅く恃むに因て愧を得ん
五 是故に我兄弟を勸て先なんぢらに往しめ彼等をして爾曹が前に約し所の惠のことを預じめ備しむるへ必ず爲べきことゝ思へり是この施濟を吝む心よりなさず惠む心より爲しめんとすれば也
六 そ

れ少く播者は少く穫おほく播者は多く穫べし 七 各人その心の中に定し所
に隨ひて施すべし 難て施すべからず 強て施すべからず 蓋神は喜びて施者を愛
するものを愛し給へばなり 八 神は恩惠をなして常に凡の物に足ざることなく
凡の善事を多く行しめん爲に能汝らに凡の恩惠を多く賜ふ者なり 九 錄して
彼は散し貧き者に施せり 其義は窮なく存んとあるが如し 十 播者に
種を予へ食の爲にパンを予たまふ者は汝らの種を繁殖し汝らの義
の實を增給ふべし 十一 なんぢら諸事に富たれば吝なく施を行ふことを得な
り 此人をして我儕に由て神に感謝せしむ 十二 蓋この施濟のことは聖徒の
乏を補ふのみならず饒かに衆の人をして神に感謝せしむるに至れば也 十三
彼等は此施濟の證據により汝等が信服してキリストの福音に從ふことゝ吝
なく彼等および衆の人に施することを知 十四 また彼等は汝らの爲に禱り其
に就て神を崇め又汝らの爲に祈て汝らを慕ふ 十五 言つくされぬ神の賜物の
事に因て我神に感謝する也

[illegible]

一 我パウロ即ち汝曹の中に在て面前にては謙遜なれど離居ては汝曹に向ひて勇ましき者なるが
いまキリストの溫和と寛容を以て汝曹に勸む
二 我儕を肉に循ひて行ふ者と思ふ人あり我かくの如き人を責ふに勇ましき心を用ひんとす
汝曹に在ときは此勇ましき心を用ふることなからん爲に汝曹に求む
三 我儕は肉に在て行けども肉に循ひて戰はず
四 夫われらが戰爭の器は肉に屬する者に非ず神に由て堅き營を毀るほどの能あり
五 われら衆の論説および神を知ことを阻むる所の高ぶれる者を毀ち凡の思念を虜にしてキリストに服はしむ
六 且なんぢら全く從ふ時は諸の從はざる者を罰せんと既に其備をなせり○
七 汝曹は外貌のみを見るか若し人みづからキリストに屬る者と信ぜば復自ら之を思ふべし己がキリストに屬る如く我儕もキリストに屬る者なりと
八 蓋われ主の我儕に賜ひし所の權威(是汝曹を敗る爲に非ず建ん爲なり)につゐて誇ることの過るとも我慙とせず
九 我これを言は書を以て汝曹を懼れしむる如く見ざらん爲なり
十 蓋かれらの言に其書は重く且つ強けれども

[illegible]

十一 離へ居て書に言るは偕に在ときに行ふ者なり此の如き人これを思ふべし我儕が離違さる時の書の言の如く偕に在ときも亦かくの如くならん

十二 自ら薦る者あり我儕敢て之と班し之と較ることをせず然ど彼等みづから己に度みづから己に較れば智なき者なり

十三 我儕へ度を踰て誇らず惟神われらに度給ひし所の法の量に循ふ我儕この量に循ひて爾曹にまで至れり

十四 我儕へ爾曹に至るべからざる者の如く自ら量を踰て爾曹に及ぶに非ず蓋キリストの福音を傳て旣に爾曹にまで至れば也

十五 我儕は量を踰て他の人の勞を誇らず惟爾曹の信仰いよいよ篤なり我儕の量なんぢらの中に在て更に大ならん事を望む

十六 是われら爾の地に往て旣に備れるものを誇らず爾曹の處に福音を傳んが爲なり

十七 誇る者は主を誇るべし

十八 自ら薦る者は嘉納らるゝに非ず主の薦る所の者は嘉納るれば也

第十一章

一 願くは爾曹少しく我が愚なるを容よ爾曹も亦我を容る者なり

二 われ神の熱心の如き熱心をもて爾曹を念ふ我なんぢらを一人の夫に聘定

せず是なんぢらを潔き女としてキリストに獻んとする爲なり 三 蛇の詭譎にエ
バの惑されし如く爾曹の心も壞れてキリストに向ふの誠實を離ん事を我
懼るゝ 四 もし人きたりて我儕が未だ宣ざる外のイエスを宣んに爾曹ある
ひは未だ受ざる外の靈をうけ或は未だ受ざる外の福音を受るときは爾曹
能これを容ん 五 我は何事にも大なる使徒等に劣ずと思ふなり 六 我は
言に拙けれども知識に然らず我儕の凡の事について爾曹に顯明なり
し 七 われ爾曹を高せんが爲に自ら卑して神の福音を値なしに爾曹に傳
ふるは罪を犯せしや 八 われ爾曹に役んために他の教會より値を受て之を奪へり
や 九 又われ爾曹の中に在て乏かりし時も誰をも累はさゞりき
わが乏き所はマケドニヤより來れる兄弟之を補へり 我すべての事に於て我みづから
守て爾曹を累はさゞりき後も亦みづから守らん 十 我に在キリストの眞實に據
りて我いふ我この誇る所のことをアカヤの地にて阻る者あらじ 十一 これ何
故ぞや爾曹を愛せざるに因か神知たまへり 十二 われ機を求る者の機を絶ん

ために我が行ふ所をなほ行へんとす彼等をして其誇るところ我儕と同
からしめん爲なり　十三　かの類の人は僞の使徒また詭譎を行ふ者にしてキリスト
の使徒の貌に變じたる者なり　十四　これ奇しき事に非ず　サタンも光明の
使の貌に變ずるなればなり　十五　然ば其役者たちも義の役者の貌に變ずるとも
大なる事に非ず彼等の終は必ずその行に循ふべし　十六　又いふ人われを
愚と思ふ勿れ然ずば我を愚なる者として受納よ我も少しく
誇らん爲なり　十七　わが言ところは主に循て言に非ず愚なる者の如く誇ら
ずして言なり　十八　多くの人肉に因て誇らば我も亦誇るべし　十九　なんぢら智
ある者にして喜びて愚なる者を容れるなり　二十　人もし爾曹を奴隷とし人も
し爾曹を喰ひ人もし爾曹を擄め人もし自から高ぶり人もし爾曹の面を批つ
も爾曹これを容るなり　二一　われ辱て言われらは懦弱者の如なりき然ど人の
強き所には我も亦強し（わが言は愚なる者の如し）　二二　彼等ヘブル人なる
か我も然り彼等イスラエルの人なるか我も然り彼等アブラハムの裔なる

[illegible]

われも然り　二三　彼等キリストの役者なるか我は之に愈れり（われ狂へる者の如く言ふ）われ勞しこと彼等より多く鞭たれしこと彼等より甚しく獄に入たることも多く死に瀕しことも屢〻なり　二四　ユダヤ人より四十に一つ足ぬ鞭を受しこと五次　二五　杖にて撃れしこと三次　石にて撃れしこと一次　舟の壞れしこと三次　一日一夜深處にあり　二六　屢〻旅行し　河の難　盜賊の難　同族の難　異邦人の難　城中の難　野の難　海の難　僞の兄弟の難に遭り　二七　また勞苦に困て屢〻眠らず飢渇に困て屢〻食を絶ち寒凍て裸體なりし　二八　此等に觸ざる外の事ありて日々我に迫る即ち諸の教會の慮なり　二九　誰か弱て我弱らざらんや　誰か躓きて我心熱せざらんや　三〇　もし我が誇るべくば我が弱きことを誇るべし　三一　永遠に頌讚べき我主イエスキリストの父なる神は我が謊らざるを知たまふ　三二　ダマスコに在るアレタ王の下なる提督われを執へんとしてダマスコ人の邑を守れり　三三　われ籃にて窓より城垣を縋下されて彼の手を避れたり

[illegible]

一 わが誇ハ益なし今ハ主の顯現と默示に及ばん 二 我キリストにある一人のものを知り此人十四年前に攜へられて第三の天に至る(或ハ肉體に在しか我之を知ず或ハ肉體の外に在しか我之を知ず　神知たまふ) 三 我この人を知る(或ハ肉體に在しか或ハ肉體の外に在しか我之を知ず　神知給ふ) 四 かれ樂園に攜へられて言べからざる言即ち人の語るまじき言を聞り 五 我かくの如き人の爲に誇るべし我が爲には我が弱の外に誇らじ 六 我もし自ら誇らんとするとも愚なる者とならず蓋眞實を言ばなり然ど人の我に見ところ聞ところに過て我を尊んことを恐るゝに因て誇ることを止べし 七 また默示の多に因て我が高ぶることを無らん爲に刺を我が肉體に予ふ即ち我が高ぶることを無らん爲に我を撃サタンの使者なり 八 これが爲に主に之を去しめんことを三次まで求たり 九 主我に言給ひけるハ我恩なんぢに足れり我能ハ弱に全く顯るゝなりと是故に我寧ろ大に喜びて自己の弱に誇らん是キリストの能われに寓らん爲なり 十 之に因て我

[illegible]

或人には方言を言ことを或人には方言を譯することを賜ふ
十一 凡て此等は一つの靈の行ふ所にして其心に從ひ各人に分與へ給ふなり
十二 それ身は一にして肢は多し身の肢は多しと雖も一の身なるが如くキリストも亦然り
十三 我儕ユダヤ人ギリシャ人或は奴隷或は自主の者も皆一の靈によりてバプテスマを受て一の身となり皆一の靈を飲せて一の身と爲られたり
十四 夫身は一の肢に非ず多くの肢なり
十五 もし足われ手にあらざれば身に屬せずと云とも是によりて身に屬せざるにあらず
十六 もし耳われ目にあらざれば身に屬せずと云とも是によりて身に屬せざるにあらず
十七 もし全身目ならば何處にて聞ん もし全身耳ならば何處にて嗅ん
十八 されど今神その意に循ひて肢を身に置給へり

トス汝等より利を得し乎われら同じ心にて行ざりしや同じ跡を行ざりし乎○
十九
汝等また我儕みづから汝等に辯ずると思ふや我儕はキリストに在て神の前
にいふ愛する者よ我儕の行ふ所は皆なんぢらの徳を建ん爲なり
二十
我いたらん
時われ汝等を見に我が欲る如くならず汝等の我を見も亦汝等の欲ざる如くな
らざらんことを恐る又恐くは爭競媢嫉忿怒分爭讒謗私語驕傲紛亂な
どの有んことを恐る
二十一
又わが再び至らん時わが神我をして汝等の中に謙
しめ給んこと又おほくの人の罪を犯て其行ひし所の汚穢淫行
好色なるを悔改めざるを見て痛哭んことを恐る

第十三章
一
我いま第三次なんぢらに至らんとす二人或は三人の證人の口に
由て萬の事を定むべし
二
我さきに汝等に偕たりし時第二次なんぢらに
語りし如く今はなれ居て前に罪を犯しし者と其餘の人々に今また預じめ書て告る我
いたらば容赦せじ
三
是なんぢらキリストの我に在て語る證を求るに因
てなり彼は汝等に向て弱からず汝等の中に強なり
四
それ彼は弱きに由て十字架に

に釘られたれど神の能に由て生たり我儕も彼に在て弱者なれど爾曹に向ふ神の能に由て彼と偕に生ん　五　なんぢら信仰に在や否自ら試み自ら證よいつも彼等も捨らるる者ならずイエスキリスト爾曹の中にあり之を自ら知ざらん乎　六　われら棄らるゝ者に非ざるを爾曹知んことを我のぞむ　七　我儕なんぢらが少も惡を行ざらんことを神に願ふ此われらの是なることを顯さんとに非ず我儕棄らるゝ者の如く見るとも爾曹が善を行はんことを願ふなり　八　我儕眞理に逆ひて何をも爲し能はず眞理に順ひて爲し能ふなり　九　われら弱して爾曹強き時は我儕喜ぶ我儕爾曹の全からんことを願ふなり　十　是故に我離れて居るとき此を書送るは臨る時に主の我に賜ひし權威を以て嚴く行ふことなからん爲なり此權威は毀つ爲に非ず建る爲なり　十一　終に言ん兄弟よ爾曹喜べ全き者と成れ慰を得よ心を同じくし且和睦に居れ然ば仁愛と平安の神なんぢらと偕に在ん　十二　なんぢら聖き接吻をもて互に安否を問へ　十三　諸の聖徒なんぢらに安を問り

主イエスキリストの恩と神の愛と聖霊の交感なんぢら衆と偕に在んことを
アメン

新約全書哥林多後書終